

にしはら農地利用最適化推進運動

農委会名：西原村農業委員会

1 地域の概要

西原村は、熊本市の東方約20km、阿蘇外輪山の西麓に位置し、東部は俵山をはじめとする広大な原野と山林が占め、西へと台地が広がっている。ほぼ全域が火山灰の黒ボク土壌で、村の基幹産業は、甘藷・里芋・米・畜産を中心とした農業である。

近年は農業従事者の高齢化や担い手の不足等により、特に山間部で耕作放棄が増え有害鳥獣による被害の発生が増加の一途をたどっている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 12人（うち、認定4人、女性3人）
- (2) 推進委員数 9人（うち、認定2人、女性0人）
- (3) 事務局体制 3人（兼任）

3 掲げた目標

- (1) 守るべき農地を明確化するために再生困難な農地の非農地化を推進する。
- (2) 新規参入後のフォローアップを支援する。

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

(1) 農地の集積・集約化

最適化活動の目標設定や達成状況の点検・評価等が定められたことを受け、委員の理解を深める研修を実施し、「見える化」するために各委員が日々の活動内容を忘れないうちに記録するよう努めた。

(2) 遊休農地の解消

遊休農地の発生未然防止と再生を目的に、大字毎に農業委員と農地利用最適化推進委員で班編成し、地域を巡回パトロールして農地利用状況調査から農地利用意向調査までを一体的に実施し、現状把握と地域の課題の共有を行った。

また、農地として再生困難な耕作放棄地については非農地化の促進を図った。

(3) 新規就農者への支援

村、JA等の関係機関が連携して、新規就農者（就農希望者を含む）と担い手及び先進的な取組みをしている農家との意見交換会を開催し、事例発表や相談、質疑応答を通して見識と交流を深める取り組みの支援を行った。

別紙様式①



【調査前打合せ会議】



【農地利用状況調査】



【新規就農者意見交換会】

5 取り組みの成果

非農地判断面積 7.6ha

6 課題と今後の方針等

今後ますます農業者の高齢化や後継者不足が進み、荒廃農地の増加が懸念される。非農地判断を適切に実施しながら地元委員との情報共有を図り、農地の保全及び担い手への集積に努め、農地中間管理機構と連携しながら農地利用の最適化を推進していく。

また、新規参入の促進活動の一環として、参入者が継続して安定した営農ができるよう就農後のサポート体制の確立が課題である。